

令和 4 年 6 月 議 会 定 例 会 議 案

市 長 提 案 理 由 説 明 要 旨

(令 和 4 年 6 月 13 日 提 出)

新 潟 市

本日提案いたしました議案の説明に先立ちまして、貴重なお時間を頂戴し、次期市長選挙への対応について、一言述べさせていただきます。

今月6日に、私は10月に行われる新潟市長選挙に立候補する意思を表明させていただきました。本日市議会の皆さまに、改めて市長選挙に向けた私の考えを述べさせていただきます。

私は、前回の市長選挙にあたり「私たちの新潟市が衰退することがあってはならない。都市と田園が調和し、活力ある日本海側の拠点、安全安心でいきいきと暮らせる新潟のまちを創っていきたい」と決意し、選挙戦に挑み当選させていただきました。

市長就任後は、喫緊の課題であった持続可能な行財政運営に向けた集中改革をはじめ、子育て支援の充実、新潟の強みである農業の振興、拠点性の向上など、市議会の皆さまのご理解、ご協力をいただきながら、活力ある新潟の実現に向けて、着実に取り組みを進めてきました。

また国や関係機関と連携し、約60年ぶりにリニューアルされる新潟駅や駅周辺整備事業の推進、中長距離バスターミナル「バスタ新潟」の事業化決定をはじめ、万代島ルート線・沼垂道路や、新潟西バイパス・曾和～明田間の事業化決定など、本市の拠点性の向上に向けて取り組んできました。

さらに、交流人口の拡大と地方活性化に向けては、新潟県と連携し、新規航空路の開拓、クルーズ船の誘致、ポートセールスの推進などに積極的に取り組んできたところです。

しかしながら、就任 1 年半後の令和 2 年 2 月 29 日、全く予想だにできなかった新型コロナウイルス感染症が市内に発生し、未知のウイルスとの闘いが始まりました。

以降、この 2 年以上にわたり、市民の命と健康を守ることを最優先に感染拡大防止に努めるとともに、ワクチン接種への対応などに全力で取り組んできました。また大きな打撃を受けた社会経済活動の回復に向けて、迅速に対策を講じるため、「新潟市経済社会再興本部」において、200 を超える事業を実施してきました。

これまで誰も経験したことのない難局を乗り越えるため、市議会からは、「新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金」へのご協力をはじめ、多くのご提案やご要望をいただくなど、市議会の皆さまと一緒に、市役所一丸となり全力で取り組んでまいりました。

しかし、長期にわたり、かつ目まぐるしく変化する新型コロナウイルスの拡大は、本市の社会経済へ深刻な影響を及ぼしています。

コロナ禍により、社会全体が不安に包まれているからこそ、私は本市のまちづくりの将来像、明るい未来を示したいと思い、ウイズコロナ・ポストコロナ時代のまちづくりビジョン「選ばれる都市 新潟市」を令和3年2月に公表しました。

このビジョンを推進するためには、コロナ収束後では遅すぎるため、一步先に着手することに大きな意義があると判断しました。

こうして、まちづくりの方向性を打ち出せたことで、今年度予算において関連する予算を市議会からお認め頂き「選ばれる都市 新潟市」に向けた、様々な事業をスタートすることができました。

私は、これからの新潟市政を展望した時に、重要なことが3つあると考えています。

一つ目は新型コロナウイルスへの対応です。依然として新型コロナウイルスとの闘いは続いています。引き続き、市議会のご協力をいただきながら、感染防止対策やワクチンの接種などの対応を進め、コロナ禍を収束させるとともに、ダメージを受けた社会経済の痛みを回復させ、一日も早く平穏な日常を取り戻さなければなりません。

二つ目は、将来にわたって持続可能なまちを構築することです。

これまでの集中改革によって、当面の財政健全化は図られつつあると思っておりますが、将来にわたって災害にしっかりと備え、豊かな生活へ投資を可能とする財政基盤づくりによって、市政をさらに充実させていきたいと考えています。

そのため、市議会や地域の皆さまと丁寧に意見交換を行いながら、引き続き行財政改革に取り組むとともに、公共施設の再編に本格的に着手することで、人口減少社会に合わせた持続可能なまちを構築し、将来世代の安心へとつなげていきます。

三つ目は、本市の明るい未来を切り拓いていくことです。

本市の良さである「都市と田園が調和する強み」を活かし、自然に包まれながらも利便性が高い新潟市を築き、「選ばれる都市 新潟市」の実現に向け、力を尽くしてまいります。

私は、こうした強い思いを実現させるため、次期新潟市長選挙に立候補する決意を固めた次第です。

今後、市議会をはじめ、地域や経済界の皆さまなど、多くの皆さまのご意見をお聞きし、そのうえで私自身の考えとあわせまして、選挙公約を取りまとめまいります。

以上、次期市長選挙に向けての私の考え方について申し述べさせていただきました。新潟の活力向上に向け、市議会や市民の皆さまとともに、新潟市政を大きく前進させていく所存です。

それでは、引き続き、本日提案いたしました議案の概要につきまして、説明を申し上げます。

議案第 43 号から第 45 号は、一般会計のほか 2 会計の補正予算です。

初めに、一般会計の主な内容について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による様々な影響が続く中、現在の原油価格・物価高騰は、コロナ禍からの経済社会活動の回復の足取りを阻害しかねず、こうした状況に機敏に対応していくことで、本市の経済社会活動の回復が確かなものとなるよう取り組んでいきます。

まず、小中学校や保育施設等の給食費の値上げや、地域経済活性化の観点などを踏まえ、子育て世帯に対し、中学生までの児童 1 人あたり 1 万円の商品券をお配りし、経済的支援を行います。

また、中小企業への資金繰り支援のため、新たな制度融資枠を設けるとともに、市内製造事業者に対し、太陽光発電設備の導入などを支援するほか、

燃料費の割合が大きい施設園芸農業者に対する省エネ資材等の導入や、肥料価格の高騰を踏まえた有機質肥料の利活用を支援します。

加えて、厳しい経営状況が続いている観光事業者やタクシー事業者、ごみ収集事業者などの事業継続を支援するほか、^{けんこう}健幸すまいリフォーム助成事業の事業費を増額します。

このほかの主な補正としては、4回目の新型コロナウイルスワクチン接種に向けて必要な経費を増額するほか、3年振りとなる新潟まつりの開催に向けて、市民参画プロジェクトの予算を追加します。

また、国の補助内示等に伴う増額補正や、国が推進する地方公共団体情報システム標準化に対応するため、必要な経費を補正します。

あわせて、介護保険事業会計においても、介護保険システムの標準化を進めます。

また、と畜場事業会計では、食肉センター照明設備のLED化を図ります。

以上が補正予算の主な内容であります。出納整理期間も過ぎ、令和3年度の収支状況が、概ね見通せる段階となりましたので、この機会に決算見込みについて、ご報告申し上げます。

歳入につきましては、現計予算額をさらに上回る市税収入を確保できる見通しであり、歳出につきましては、特別会計への繰出金など一定の不用額も生じることから、60億円を上回る黒字となる見通しです。

なお、ワクチン接種経費に係る国費の精算などで20億円を超える返還が必要なことから、実質的な黒字は40億円余りとなる見込みです。

次に、一般議案の概要について、説明いたします。

議案第46号は、国から示された考え方にに基づき、本市の条例の読点の標記を「^{こんま}、」から「^{てん}、」に改めるものであり、

議案第47号は、小針駅前の自転車駐車場整備に伴い、関連する規定を整備するものです。

議案第 48 号は、地方税法の一部改正に伴い、関連する規定を整備するものであり、

議案第 49 号は、新型コロナウイルス感染症の影響による介護保険料の減免申請手続に関する規定を整備するものです。

議案第 50 号は、診療報酬の改定に伴い、市民病院の受診料金に関する規定を整備するものであり、

議案第 51 号は、公職選挙法施行令の改正に伴い、準拠している条例を改正するものです。

議案第 52 号は、固定資産評価員に新たに、本間^{ほんま} 隆^{たかし} 氏 を推薦することについて、議会の同意を得ようとするものであり、

議案第 53 号は、新潟県公安委員会委員に、新たに、高橋^{たかはし} 香子^{きょうこ} 氏 を推薦することについて、議会の同意を得ようとするものです。

議案第 54 号は、主要地方道新潟中央環状線 信濃川^{と か} 渡河工区 P 7 橋脚工事^{びーなな}の契約の締結について、議会の議決を得ようとするものであり、

諮問第 1 号は、人権擁護委員の候補者として、

再び、
遠藤 由美 氏、
新田 利子 氏、
山本 町子 氏、
市川 孝幸 氏、
池田 肇 氏、
田沢 広一 氏、
高橋 勝利 氏、
坂井 玲子 氏、
中野 高子 氏、
幸田 早苗 氏を、
齋藤 裕子 氏、

を推薦することについて、議会にお諮りするものです。

報告第 1 号から第 4 号までは、繰越明許費などの繰り越しについて、ご報告申し上げます。

以上、提案いたしました議案について、説明申し上げます。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。